



2024年9月26日

各位

会社名 株式会社トップス  
(コード番号 243A TOKYO PRO Market)  
代表者名 代表取締役社長 箱崎 英次  
問合せ先 代表取締役副社長兼管理本部長 村本 光彦  
T E L 03-5570-3448  
U R L <https://akasaka-tops.co.jp/>

東京証券取引所 TOKYO PRO Market への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日 2024 年 9 月 26 日、株式会社東京証券取引所 TOKYO PRO Market に株式を上場いたしました。今後ともなお一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2024 年 9 月期（2023 年 10 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日まで）における当社の業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2024 年 9 月期 (予想)			2023 年 9 月期 (実績)	
			構成比	対前期増減率		構成比
売上高		3,423	100.0	2.6	3,337	100.0
営業利益		132	3.9	66.5	79	2.4
経常利益		132	3.9	66.7	79	2.4
当期純利益		130	3.8	200.8	43	1.3
1 株当たり当期純利益		65.00 円			21.61 円	
1 株当たり配当金		-			0.00	

(注) 1. 1 株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式数（2024 年 9 月期については予定）で算出しております。なお、当社は 2023 年 2 月 1 日付けで普通株式 1 株につき 100 株の割合で株式分割を行っております。そのため、2023 年 9 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり当期純利益を算定しております。

2. 2024 年 9 月期の 1 株当たり配当金につきましては、現時点では未定のため記載しておりません。

## 【2024年9月期業績予想の前提条件】

### 1. 当社全体の見通し

我が国経済は、原材料・エネルギー価格の高騰、円安や人件費の高騰等により諸物価が上昇し、先行き不透明な状況が続いており、当社はもとより国内で製造する企業を取り巻く事業環境は厳しさが続くと思われまます。

当社が属する食品業界におきましても、新型コロナウイルスによる行動制限の緩和以降、人流の改善やインバウンド消費の拡大等により需要は回復基調にあるものの、原材料価格・光熱費の高騰、人手不足等の影響により、引き続き厳しい経営環境が続いております。

当社におきましては、チョコレートケーキ等の定番商品に加え、季節限定商品並びに数量限定商品を継続的に投入していくことにより、新規及びリピートの顧客獲得に取り組んでまいります。

また、ロングセラー商品の焼菓子やチョコレートケーキアイス、その他商品ラインナップを拡充し、新たなビジネス展開としてECサイトによる販売にも力を入れてまいります。

なお、以下に記載する業績予想につきましては、2023年10月から2024年6月までの実績値及び2024年7月から9月までの予想値を使用して算出しております。

### 2. 業績予想の前提条件

#### (1) 売上高

当社の売上高は、洋菓子製造販売事業、軽飲食事業、その他の事業で構成されており、過去の売上実績からの推移や変化を分析して販売予測を立て、これをベースに市況・環境・動向等から需要・ニーズを予測し、店舗別に予算策定を行っております。

これらの結果、売上高は3,423百万円（前期比2.6%増）を見込んでおります。

#### (2) 売上原価、売上総利益

売上原価は、過去の実績及び市況・環境・動向等に基づいて算出しております。

これらの結果、売上原価は1,488百万円（前期比0.8%増）、売上総利益は1,935百万円（前期比4.0%増）を見込んでおります。

#### (3) 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費は、過去の実績及び上場関連費用等に基づいて算出しております。

これらの結果、販売費及び一般管理費は1,803百万円（前期比1.2%増）、営業利益は132百万円（前期比66.5%増）を見込んでおります。

#### (4) 営業外損益、経常利益

営業外損益は、過去の実績及び発生が見込まれる営業外損益に基づいて算出しております。

これらの結果、経常利益は132百万円（前期比66.7%増）を見込んでおります。

#### (5) 特別損益、当期純利益

特別損益に関しましては該当事項が無いと想定しておりません。

従って、当期純利益は130百万円（前期比200.8%増）を見込んでおります。

**【業績予想に関するご留意事項】**

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合等の様々な要因によって異なる場合があります。

以 上



## 2024年9月期 中間決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年9月26日

上場会社名 株式会社トップス 上場取引所 東  
コード番号 243A URL <https://www.akasaka-tops.co.jp>  
代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）箱崎 英次  
問合せ先責任者（役職名）代表取締役副社長 管理本部長（氏名）村本 光彦 TEL 03 (5570) 3448  
中間発行情報提出予定日 - 配当支払開始予定日 -  
中間決算補足説明資料作成の有無：無  
中間決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2024年9月期中間期の業績（2023年10月1日～2024年3月31日）

#### （1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期中間期	2,012	-	230	-	229	-	194	-
2023年9月期中間期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期中間期	97.42	-
2023年9月期中間期	-	-

- （注）1. 当社は、2023年9月期中間期においては、中間財務諸表を作成していないため、2023年9月期中間期の数値及び対前年同期増減率、並びに2024年9月期中間期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。  
2. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

#### （2）財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
2024年9月期中間期	2,294	1,813	1,813	1,617	79.0
2023年9月期	2,011	1,617	1,617	-	80.4

（参考）自己資本 2024年9月期中間期 1,813百万円 2023年9月期 1,617百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	0.00	0.00	0.00
2024年9月期	0.00	-	-
2024年9月期（予想）	-	-	-

- （注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
2. 2024年9月期の配当予想につきましては、未定としております。

### 3. 2024年9月期の業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,423	2.6	132	66.5	132	66.7	130	200.8	65.00

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年9月期中間期	2,000,000株	2023年9月期	2,000,000株
② 期末自己株式数	2024年9月期中間期	一株	2023年9月期	一株
③ 期中平均株式数（中間期）	2024年9月期中間期	2,000,000株	2023年9月期中間期	2,000,000株

※当社は、2023年2月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。2023年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 中間決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間貸借対照表 .....	4
(2) 中間損益計算書 .....	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境が改善する下で各種政策の効果もあり、緩やかな回復がみられました。一方で、ウクライナ情勢・中東情勢等による不透明感に加え、世界的な金融引き締めや中国経済の先行き懸念、エネルギーコストや原材料価格の高騰による物価上昇が継続し、家計の実質所得の減少や企業のコスト負担の増加等、家計・企業を取り巻く環境は厳しいものとなりました。

食品業界におきましても、人流の改善やインバウンド消費の拡大等により需要は回復基調にあるものの、原材料価格・光熱費の高騰、人手不足等の影響により、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社では以下のような取り組みを行ってまいりました。

#### (売上の伸長に向けた取り組み)

##### ①新規出店と不採算店の退店

2023年11月に不採算店1店を退店し、収支改善への取り組みを行いました。一方、新規の出店はありませんでしたが、出店にあたっては慎重に検討して収益力の強化に努めてまいります。

##### ②商品開発並びに監修商品への取り組み

コンビニエンスストア及び量販店等において、下記監修商品が発売され、ご好評をいただいております。チョコレートドリンク、チョコのクレープ〜くるみを抜いちゃいました〜、2層仕立てのショコラケーキ、チョコレートプリン、ザクザククッキーシュー、チョコクリームドームパン、チョコホイップデニッシュ  
業容の拡大には事業基盤の安定化と当社ブランドの認知度拡大の両立が必要であると認識しており、引き続き他企業とのコラボレーション企画や商品監修に取り組んでまいります。

##### ③適時な販促活動と季節商品の投入

下記季節限定商品並びに数量限定商品を発売し、ご好評をいただいております。  
ホリデーアソート、バウムダブルチョコレート、苺のロマノフ、くるみショコラ、チョコランタン、生チョコレート、スプリングバスケット、桜のチーズケーキ  
限定商品を継続的に投入していくことにより、固定客の来店頻度の向上及び新規顧客層の取り込みに努めてまいります。

##### ④ECサイトの強化

2023年8月に開設したECサイトでは、ロングセラー商品の焼菓子に加え、新商品のチョコレートケーキアイスの販売を開始する等、商品ラインナップの拡充を図ってまいりました。

#### (内部管理体制の強化に向けた取り組み)

食品の安全管理規格である「JFS-B規格」を活用し、徹底した品質管理とお客様の立場に立った商品づくりやサービス提供に取り組んでまいりました。

また、情報資産のセキュリティを管理するための枠組みであるISMS(ISO27001)の認証を本社含む主要事業所で取得し、継続的な運用を行ってまいりました。

以上の結果、当中間会計期間における売上高は2,012百万円、営業利益は230百万円、経常利益は229百万円、中間純利益は194百万円となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

##### (資産)

当中間会計期間末における流動資産は、前事業年度末より308百万円増加し、1,484百万円となりました。これは主に、現金及び預金が152百万円、売掛金が147百万円、商品及び製品が17百万円増加したこと等によるものであります。固定資産は、前事業年度末より25百万円減少し、810百万円となりました。これは主に、その他に含まれる機械装置等の有形固定資産が8百万円、繰延税金資産が14百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、資産合計は、前事業年度末より283百万円増加し、2,294百万円となりました。

##### (負債)

当中間会計期間末における流動負債は、前事業年度末より94百万円増加し、379百万円となりました。これは主に買掛金が54百万円、未払費用が14百万円、未払法人税等が14百万円、未払消費税等が10百万円増加したこと等によるものであります。固定負債は前事業年度末より7百万円減少し、101百万円となりました。これは主に、退職給付引当金が3百万円、資産除去債務が2百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、前事業年度末より87百万円増加し、481百万円となりました。

(純資産)

当中間会計期間末の純資産は、前事業年度末より196百万円増加し、1,813百万円となりました。これは主に利益剰余金が194百万円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は988百万円になりました。各キャッシュ・フローの状況と主な要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、154百万円となりました。これは主に、税引前中間純利益229百万円、仕入債務の増加額54百万円、未払費用の増加額14百万円による増加要因と、売上債権の増加額151百万円による減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、0百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、1百万円となりました。これは主に、リース債務の返済による支出によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点において、2024年9月期(2023年10月1日～2024年9月30日)の通期業績予想に変更はありません。



## 2. 中間財務諸表及び主な注記

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当中間会計期間 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	835,728	988,458
売掛金	246,695	393,905
商品及び製品	22,911	40,138
仕掛品	14,709	6,389
原材料及び貯蔵品	39,954	38,235
前払費用	14,125	15,263
前渡金	413	396
未収入金	19	65
その他	1,136	1,640
流動資産合計	1,175,694	1,484,494
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	60,965	59,892
土地	633,581	633,581
その他(純額)	81,770	73,234
有形固定資産合計	776,317	766,708
無形固定資産	1,730	1,598
投資その他の資産	57,704	41,964
固定資産合計	835,751	810,270
資産合計	2,011,446	2,294,764
負債の部		
流動負債		
買掛金	91,112	145,954
未払金	65,571	66,188
未払費用	79,594	94,349
預り金	17,681	17,862
未払法人税等	6,250	21,010
未払消費税等	18,517	28,524
未払事業税	2,531	—
その他	4,016	5,822
流動負債合計	285,276	379,712
固定負債		
退職給付引当金	31,244	28,158
資産除去債務	51,580	49,178
預り保証金	6,000	6,000
その他	20,141	18,461
固定負債合計	108,966	101,798
負債合計	394,242	481,511
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	128,346	128,346
利益剰余金	1,478,611	1,673,454
株主資本合計	1,616,958	1,811,801
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	245	1,451
評価・換算差額等合計	245	1,451
純資産合計	1,617,203	1,813,253
負債純資産合計	2,011,446	2,294,764

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
売上高	2,012,736
売上原価	845,867
売上総利益	1,166,868
販売費及び一般管理費	936,409
営業利益	230,459
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	22
助成金収入	543
その他	256
営業外収益合計	821
営業外費用	
商品廃棄損	977
固定資産廃棄損	307
その他	23
営業外費用合計	1,308
経常利益	229,972
税引前中間純利益	229,972
法人税、住民税及び事業税	21,013
法人税等調整額	14,115
法人税等合計	35,129
中間純利益	194,843

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前中間純利益	229,972
減価償却費	10,509
敷金償却額	1,155
長期前払費用償却	325
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△3,086
受取利息及び受取配当金	△22
固定資産廃棄損	307
売上債権の増減額(△は増加)	△151,692
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7,188
未収入金の増減額(△は増加)	4,436
その他の資産の増減額(△は増加)	△1,625
仕入債務の増減額(△は減少)	54,842
未払金の増減額(△は減少)	661
未払費用の増減額(△は減少)	14,754
預り金の増減額(△は減少)	180
未払消費税等の増減額(△は減少)	10,006
その他の負債の増減額(△は減少)	△2,515
小計	161,023
利息及び配当金の受取額	22
法人税等の支払額	△6,253
営業活動によるキャッシュ・フロー	154,791
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△1,076
資産除去債務の履行による支出	△204
敷金及び保証金の回収による収入	897
投資活動によるキャッシュ・フロー	△382
財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の返済による支出	△1,679
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,679
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	152,729
現金及び現金同等物の期首残高	835,728
現金及び現金同等物の中間期末残高	988,458

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社の事業は、洋生菓子の製造販売並びにこれら附帯業務の単一事業であります。したがって、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。